

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	障がい児通所支援事業所 陽だまり		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 8日		～ 2026年 1月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の人数が多いので柔軟に動け、個別対応に手厚く関わることができる。職員間の雰囲気良くコミュニケーションが良く取れているので、児童の情報共有や支援の一貫性ができている。	アセスメント等から児童の特性把握に努め『その子らしさ』を大切に支援に取り組んでいるので、職員間でコミュニケーションを取りながら、必要な事前準備(職員間の共通理解も含む)を行ってから支援している。	これからも職員間で意見を出し合い『その子らしさ』を大切にしたり良い支援が提供できるよう職員一丸となって取り組んでいく。
2	保護者との信頼関係が強く、連絡帳やお迎え時(送迎時)を通して保護者との情報共有・相談事ができているので、児童は安心して楽しく通所できている。	保護者の皆さんとのコミュニケーションを日頃から大切にしており、お子さんについての情報共有だけでなく日常会話においても大切にしている。	これからも子ども達が安心して楽しく通所できるよう、保護者の皆さんや関係機関の方々と連携して支援に取り組んでいく。
3	参加したい研修を受講できるなど研修の機会があり自己を高めることができるので、職員は得意を活かしながら支援できる環境がある。	研修についての情報を伝えるだけでなく閲覧しやすい場所に掲示することで参加を促し、参加後は内部研修等で報告し合うことで内容を共有して日々の支援に活かしている。	これからもより質の高い支援の提供を目指して、内部研修等の充実を図り、職員の専門性の向上に努めていく。
4	法人内での交流を通して活動の幅を広げることができている。また事業継続計画(BCP)など各種の取り組みについても、法人内の委員会に参画して滞りなく対策を実施することができている。	特に法人内の生活介護事業部とは計画を立て、定期的に活動を共にすることができている。また事業継続計画(BCP)など各種の取り組みについては、法人内の委員会活動に積極的に参加している。	これからも法人内で意見を出し合いながら各種の取り組みを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園外活動への取り組みを広げることができていない。	安全面への配慮などから、園外において全体で活動する場面ではやや難しさが生じることがある。	これからの園外での活動に際しては、グループ分けするや保護者さんの参加を募る等で安全面を確保しながらできることから少しずつ取り組んでいく。
2	専門的支援の不十分さ。	自事業所には機能訓練担当職員が不在なため、児童発達支援センターの機能訓練担当職員からスーパーバイズや助言を受けたり、研修受講などで得た知識を活かして専門的支援に取り組んでいる。	これからも関係機関との連携を通して職員の専門性の向上に努めていく。また内部研修等の充実を図ることで、より質の高い支援の提供を目指していく。
3			